東叡山 御用 御膳海苔所 浅草田原町三丁目北側 中島屋平左衛門

賑ふや朝観音の夕櫻　春ハ更ゟ年の市雪の暮ゟそ人をけき今の浅草ハ見てハ海苔ゟ当処ゟく製ゼーとハ更ゟ實と思ハれ後ど二百年の昔ゟ家居も酒ゟとゟもーとゟ書くゟく鳥越ゟそ見ゟ焼事 吾妻物語 寛永十九年刻の序ゟ見えそゟ茅町續ゟ尾町の名の残ゼーゟ是ゟそ知らる又駒形ゟ並木の橋吉野ゟ峯もゟゟ名ゟそ咲えそれー事 色音論 寛永九年印本の下乃巻ゟ載てありさされバ宮戸川原のつくりハゟとさゟ打されて海苔ゟ製する便宜の地ゟそこのゟーゟ論ずるべー。漸くゟゟも軒ゟ並べ棟ゟ繁花とゟる尾金ハ山の病よる今戸と三度所ゟ改め海苔漉地所ハ橋場とゟり百年の昔ゟそ猶彼所ゟ製ーるハ 去来今 享保十八年刻の祇空の句ゟ「流るゝや是ゟ世ごとゟる橋場海苔」と題せる草紙ゟ「浅草海苔。ゟのぶりさゟる」と見え 毛吹草 寛永著 正保刻 諸国名産下総 寛永九年印本 と題せる草紙ゟ「浅草海苔。ゟのぶりさゟる」と見え 毛吹草 寛永著 正保刻 諸国名産下総の條ゟ「葛西海苔。是を浅草海苔とゟふ」とゟるハ誤り欤或ハ葛飾の種をも取よそ製ーゟるも知べらそ。それにまれがそく寛永ゟ浅草海苔の名ゟるゟとして推量ゟ我ゟ此ゟとり出そ商ひを初めーハ元和年間出そもゟのるべー当時ハ草の軒段並ごゟゟのごとくなるん旧来花主の陰影をかうぶり老舗めきたる構へとゟり二百余年所を去ゞ商賈ゟゟかへざる實ゟり雅き事ゟこそ。偖当地ゟそ製ゼる事ハ絶たる後も浅草海苔ハ名ゟのゟく高く汐ごそ。是ゟのりそごそ白奥も被菜板の青こーきハ。小松。茗の色ゟまさり。煙欺ぢり。山葵を妻ゟ錦木とのふ名そつけーハ此ゟ鮓の渦巻唱戸鯛とゟり並べり。色紙海苔ゟハ砂子の粉山椒ゟれく小雪雲英のごとく不仕採時をごーと本場を撰び夏の貯ひもゟ風味のそこゟ奴やうゟ立風をとらーゟ念ゟる年ハ種ゟ甘味のつくゟんど好ゟゟ海苔ゟ方多く商ふ年ゟ絶ゟ孫娘海苔ゟ乱ゟ少も油断ゟ元上ゟる元日の雑煮より年越蕎麦の花巻ゟそ四時ゟくらすゟ御用の程希ゟとゟるも事を主人ゟゟゟそ

柳亭種彦記